

米欧回覧

第7号
編集・発行
米欧回覧の会
事務局

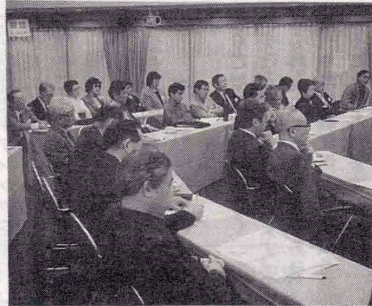
第五回例会開催される

第五回の例会は四月十九日(土)午後一時過ぎから国際文化会館のホールで約五十名が参加して行なわれた。

第一部は会務報告として、最初に泉三郎氏より一年の回顧と新年度の方針の発表があり、さらにはそれに伴う新しい組織についての報告があった。そして新任された分科会の幹事のみなさんの紹介があった。

続いて分科会の活動内容について各担当幹事よりの説明があり、「米欧回覧の会」が発足以来一年でさらに新しい展開を示すことを印象づけた。次に会計報告があり、賛助会員制度を新設することについての説明があった。

なお、大阪支部の設立について中川努氏より三月下旬関西在住の八名が集まり発会することになった旨の報告があ



り、浜地氏からは五月にアメリカ西海岸で行なわれる泉氏の講演について説明があった。五月六日はオレゴン大学で、八日にはサンフランシスコで、九日にはロスアンゼルスで共にジャパン・ソサエティにおいて映像講演が催されるとの報告があった。

第二部では映像「岩倉使節の群像」が泉氏の解説付きで

行なわれ、珍しい写真が次々と紹介され好評だった。

第三部ではNHKの元解説委員長で評論家の山室英男氏の講演があった。本年一月一日より三日まで衛星放送で放映された「日本の座標軸・岩倉使節団に見る現代の選択」でキャスターを勤めた山室氏は、ご自分の体験を踏まえながら明治維新から現代政治まで幅広く論じて、歴史があくまでも相対的なものであることを強調された。

そして午後五時半からは会場を移してパーティがあり、副使の伊藤博文や山口尚芳のご子孫から興味あるエピソードなどの披露もあり、参会者の間で自由な交歓があつて午後七時盛会のうちに閉会した。



「岩倉使節団の旅」と「米欧回覧実記」の全貌については、これまで日本でもほとんど知られておらず評価も低かったことはご承知のとおりですが、海外でも事情は同じでごく一部の研究者以外にはその存在さえ知られておらず、アメリカで日本からの使節といえは、幕末の新見使節とそれに随伴した咸臨丸を連想する人が多く、岩倉使節のことは一般には視野に入っていないように思われます。

国際的評価が待たれる

「米欧回覧実記」

泉 三 郎

そこで映像「岩倉使節の世界一周旅行」(全十巻)のブレゼンティションを行なう機会を得ました。二日にわたる長時間の上映でしたがみなさん大変熱心で、映像は視聴者に強い印象を与えたように思います。

この三月に「岩倉使節の研究会」がプリンストン大学で三日間にわたって行なわれました。

日本近代史の第一人者マリウス・ジャンセン教授、木戸孝允日記の訳者でもあるシドニー・ブラウン教授、「実記」の英訳をすすめておられるマーチン・コルカット教授などを中心に二十名程度の会でしたが、私も

五巻の英訳が進行中で一九九九年中には出版の運びになると予想されますが、その暁に初めて真の意味で、「岩倉使節団の旅」と「米欧回覧実記」が国際的評価の対象になるものと思われ

日本があの時期あれだけの大型使節団を派遣し得たということ、しかも「米欧回覧実記」という立派な記録を残したということとはまさに感嘆に値するものであり、それを知ることがとりもなおさず日本近代史を見直しの再評価するきっかけになると思われ、

「米欧回覧の会」第五回例会 泉三郎氏の挨拶から

一年の活動を振り返って

「米欧回覧の会」も昨年四月に発足いたしました。ちょうど一年になります。この間、お蔭さまで思いがけないテンポでいろいろのことが展開いたしました。この会も大変盛んになってきています。そして目下会員は約一八〇名に達し、早々と大阪に支部設立の運びにもなっております。これもひとえに会員のみなさまのこの会に寄せる熱い思いと暖かいご支援の賜物であり、大変有難く嬉しく存じております。この席をお借りして感謝の意を表わしたいと思います。

さてこの一年の活動をざっと振り返ってみますと、柱が二つあります。一つは四回の例会であり、一つは四回のニュース発行であります。

例会については毎回「映像をみる」、「実記を読む」、「サロントーク」という三部構成でやってまいりました。それは最初の年でもあり、とにかく「岩倉使節の旅」と「米欧回覧実記」の概略を知っていたらどうという狙いであり、お互いの意見交換の場にしたという思いからでありました。そして四回の「ニュース」がそ

れを会員に伝える役目を果たしました。それは記録という面と同時に、地方に在住の方々や都合で例会に出席できなかった方々にも活動をお知らせし、会員相互のコミュニケーションのために重要な役割を果たしてきたものと考えております。

そしてその間、例会での発言やアンケートなどを通じて会員のみなさまの声を聞き、コアになってくださった有志のメンバーとともに何回かミーティングを重ね、それを基に新年度の方針と活動計画を固めてまいりました。

新年度の方針と活動計画について

そこで二年目は新しく二つの展開をはかりたいと思います。一つは分科会をつくることであり、もう一つはそれに伴って組織を強化することです。

ご承知のとおりこの「岩倉使節団」と「米欧回覧実記」という素材はマンモスのような大きさで多面性をもっており、会員のみなさまの興味も極めて広範多岐におよんでいるわけがあります。しかもこの会の本来の趣旨は小集団によるサロンの会合に狙いがあり、したがって会員の興味とサロンの雰囲気双方を満たすためには、全会員を対象とした例会だけでは対応できない状況になってきています。

そこで今年からはいくつかの分科会をつくって、それぞれの興味にしたがって小グループを編成し、もう少し深く踏み込んでいこうというわけでありました。そしてとりあえず次ぎの六グループをつくることになりました。

国際交流グループ、歴史グループ、現未来グループ、映像講演グループ、実記を読むグループ、企画グループであります。そしてそれぞれのコアメンバーの方々に各グループを担当していただくことにして、みなさん幹事として会の活動を支えていただくことになったというわけでありました。

さて、以上を要約しますと、「米欧回覧の会」の活動の基本は、今年も全会員を対象とした年四回の例会、それから四回のニュースの発行、そして各分科会の活動が付加されることとなります。

それから会計の問題にちょっと触れたいと思いますが、年三、〇〇〇円の会費だけではどうしても収入が不足ですので、「賛助会費制」を設けて浄財の拠出を仰ごうということになりました。これはむろん任意でありました。これはいただければ幸いです。

みなさまのお力でこの会を盛り上げていただけたらと思います。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

新任幹事(担当)

- 山田 哲司 (国際交流)
- 半沢 健市 (歴史)
- 小田 八郎 (歴史)
- 郡山 史郎 (現未来)
- 塚本 弘 (現未来)
- 足立 光正 (映像)
- 岩崎 洋三 (映像)
- 長谷川 公一 (実記)
- 多田 幸子 (実記)
- 尾崎 美千生 (企画)
- 林 茂雄 (企画)
- 浜地 道雄 (企画)
- 浅沼 敦子 (事務局)

留任幹事

- 泉三郎 (主宰・事務局)
- 浅沼晴男 (国際交流・事務局)
- 田川信人 (企画・事務局)

「米欧回覧の会」 会計報告

1996. 4. 6 ~ 1997. 3. 31	
収入	
年会費等 (177名) (寄付50,000円を含む)	581,000
例会等会費	360,000
計	941,000
支出	
例会関連費用	439,389
案内等郵便代	69,060
会場代	217,330
食事・飲み物	152,999
NEWS関連費用	473,990
3~6号印刷代	271,920
送付郵便代	155,720
封筒作製代	46,350
計	913,379
次期繰越	27,621

・会費並に賛助会費について年会費 三、〇〇〇円は据置きとします。

ただし、会の活動の充実により経費もかさがちです。それを補うため賛助会費制を採用することにします。

・個人賛助会費

一口 一〇、〇〇〇円

・法人賛助会費

一口 三〇、〇〇〇円

これはあくまでも任意です。会の趣旨に共鳴し活動を支援してやろうとお考えのかたにご協力をいただければ幸いです。振込先は会費と同じです。

・事務局は従来通りミササ・オフィス内に置きます。

歴史グループ 連絡 半澤健市 TEL FAX 03-3717-5576

何をテーマにするか
1. 事実の探索、調査、検証
・岩倉使節団の旅についての調査、検証
・岩倉使節団連史の探索、外国における資料、子孫関連史発掘など
2. 使節団の意義と評価
・近代史における岩倉使節の位置づけ
・日本近代史の解釈・評価
何をやるか
デイスカッション、講演会、シンポジウム、などが考えられます。
どう決めてゆくか
本会のよき特色である「多様な考えを許容する、セッション式に自由に討議する、ゆるやかにまとめる、各人のできる範囲で参加する」という原則で進めていくらと思ひます。

国際交流グループ 連絡 山田哲司 TEL 03-3344-0111 FAX 03-3344-0271 (京王プラザホテル)

目的
1. 国別研究
各国関係史、交流史、比較文化、文明論など
2. 各国の研究者との交流
情報交換およびシンポジウムなど
3. 岩倉使節の足跡を辿る旅、フィールドワーク、交通機関、ホテル、食事、酒、音楽、芸術、文化など具体的な事例研究
楽しみながら国際交流の跡を辿る。
具体的な内容
1. 各国大使館、文化部との交流
例えば、三月にイタリア文化会館で行なわれたジノリ社共催の講演会ならびにパーティーなど
2. 本年五月六日〜九日、アメリカ西海岸で行なわれる泉氏による映像講演に参加するツアーの企画など。
3. いずれにしろ具体的に何をやっていくかについては、グループ参加希望者の会合において協議し、決めていきたいと思ひます。

『実記』を読むグループ 連絡 長谷川公一 TEL FAX 03-3352-0847

1. 趣旨
まず「米欧回覧実記」を読むことから始めたいと思ひます。しかし、独りで読むにはなかなか難しいのが実情から、誰かリーダーに導いてもらいながら、これをみんなで読んでいければ素晴らしいと思うのですが。
2. 方法
この本はよくエンサイクロペディア的だといいますが、その扱う範囲が極めて広範多岐にわたっていますので、同じ読む方法にも国別・テーマ別など、いろいろの切り口があると思ひます。また既に「実記」をくわしく読んでいらっしゃる方をお招きして、解説していただく方法も考えられます。
3. 具体的に
一応、先の幹事会では年に十回開こうというところでスケジュール等を作りました。時間は十九時〜二十一時あたりではとの意見が出ています。
(6/5・7/3・9/4・10/2・11/6・12/4・2/5・3/8)。どのくらい参加者があるかによって場所その他決めます。

現未来グループ 連絡 郡山史郎 TEL FAX 03-3492-1101 03-3492-8144 (ソニーPCL)

テーマ
1. 文明史における岩倉使節団の位置づけ
2. 現代日本の問題点と将来展望について
3. 具体的な政策提言、世直しの青写真(ビジョン)の提示
行動予定
・参加の方々のご意見をお聞きの上決めます。
・目標として、討議をする、シンポジウムを聞く、論文を発表する、専門家・政治家に働きかける、などが考えられます。
付記
・当然いろいろのご意見があつてよく、会として統一すべきではないと考えています。
・「新しい国際化の時代、即ち、第二の開国を迎えて、米欧から何を学ぶか」ということで、パッチャル米欧回覧旅行をやつて、その感想を語る。それが実記の現代的意義に連がり、世直しに連がる。という手法を提案します。

企画グループ 連絡 田川信人 TEL 03-3574-6633 FAX 03-3574-6634 (ギャラリー田川)

連絡 田川信人
TEL 03-3574-6633
FAX 03-3574-6634
(ギャラリー田川)
グループの紹介は次の機会にさせていただきます。

映像グループ 連絡 足立光正 TEL FAX 048-465-1398 E-mail QYJ02033@niftyserve.or.jp

1. 目的
映像の制作・上映を通じて「岩倉使節団と米欧回覧実記」のより広い理解普及をはかることを目的とします。
2. 活動内容
具体的な活動計画については、グループの皆さんと協議して決めていきたいと思ひますが、およそ次のような活動イメージを考えておきます。
① 映像作品の制作(スライド・ビデオ・その他)
② 映像上映会・講演会、その他の催事における、映像機器の設置・上映
③ 映像資料の収集・整理
④ その他
(各種催事の映像記録など)
3. その他
他のグループへの参加と重複して参加されてかまいません。(写真・ビデオ・オーディオ・CD-ROMなどに関心をお持ちの方のご参加を期待しています。スライド上映技術を習得していただき、各種催事の都度、ご都合のつく方に上映(映写装置設置)を担当していただきたいと思います。遠方の方とも、パソコンメール・FAX・郵便などを使ってできるだけスムーズなコミュニケーションをはかっていきたいと思ひます。

＜催し案内＞

『米欧回覧の会』ご案内

趣旨 この会は「岩倉使節団」に興味を持ち、その記録である、「米欧回覧実記」に関心を抱く人々の集まりです。この大いなる旅と「実記」はまさに「温故知新」の宝庫と言えましょう。この素材を媒体にして歴史をふりかえり現代の直面する諸問題についても自由に語りあおうという会です。

会員 上の趣旨に賛同する人なら誰でも入会できます。

例会 年に4回くらい会合をもつ予定です。

事業 次のような活動をする予定です。

映像サロン・講演会・旅行会
研究会・シンポジウムなど。
機関紙 年に4回程度機関紙を発行し、会員の意見発表、情報交換の媒体とします。

幹事 会員の中から、代表1名、幹事数名を選び、運営を担当します。

会費 年会費3,000円とし、主として通信費および機関紙代に充当します。例会・研究会・講演会などについては、その都度の会費とします。

事務局 当面は『ミササ・オフィス』に置きます。

〒192 八王子市元横山町1-14-16
(ミササ) TEL 0426-46-1949
FAX 0426-45-8700

入会申込
氏名・連絡先（自宅或いは勤務先の住所
TEL・FAX）現職&キャリアを事務局
までFAXまたは郵便でお送りください。
なお、年会費は郵便払込が便利です。
00180-2-580729

米欧回覧の会

★例会

- 第6回例会 7月24日(木) 18:30~21:00
国際文化会館ホール
(歴史グループ担当)
- 第7回例会 10月の予定 (現未来グループ担当)
- 第8回例会 1月の予定 (国際文流グループ担当)

★分科会の第1回会合

いずれも18:30~21:00

場所は決まり次第連絡します。

- ・国際交流 6月2日(月) ルノアール新宿三丁目店
※18:00~ 03-5379-2766
- ・歴史 5月30日(金) 国際文化会館Aルーム
- ・現未来 6月10日(火)
- ・映像 6月12日(木)
- ・実記を読む 6月5日(木)
- ・企画 未定

★拓殖大学・公開講座

- 「明日の日本を読む」 泉氏講演
- ・日時: 6月4日(水) 14:50~16:20
 - ・場所: 八王子キャンパス
 - ・問合せ: 0426-65-1441

★IATSS FORUM (国際交通安全学会主催)

- 「日本の近代化」 泉氏講演
(東南アジアからの研修生と共に学ぶフォーラム)
- ・日時: 6月17日(火) 9:00~
 - ・場所: 鈴鹿市IATSS FORUMセンター
 - ・問合せ: 0593-70-0511
(ただし、使用言語は英語)

★関西在住の方へ

大阪支部(仮称)の連絡先は下記のとおりです。
関心のある方はご連絡下さい。
山崎岳磨: 06-853-3137 (FAX兼用)

編集後記

さる三月十三日(木)には、東京九段にあるイタリア文化会館で、「岩倉使節団、イタリアを往く」の催しがありました。使節団がフィレンツェの郊外にあったジノリ社を訪れ、そこでサインした陶器やビクターズブックが今回百二十五年ぶりに公開されることになったからです。

ダンテ学者でもあり前ローマ日本文化会館の館長でもあった岩倉具忠氏夫妻やイタリア大使館の文化担当官ベロナチ氏らも出席され、泉氏がこの日のために新たに編集した映像「岩倉使節団、イタリアを往く」が上映されたあと、なごやかにレセプションが開かれました。そしてこのひとときばかりはまるでイタリアが九段に出張してきたような趣でありました。

こうして「イタリア編」をみてみると、この方式でいけば「フランス編」も「スイス編」も企画できるなという印象をもってしまいます。国際交流グループも誕生したことですし、これからの展開が楽しみです。